

令和3年の新春を迎え
～そばネットジャパンのさらなる発展に向けて～

会員の皆さんあけましておめでとうございます。

令和3年の新しき年をお健やかに迎えになられたこととお慶び申し上げます。

特に、私たちそば打ち愛好者は”年越しそば打ち”がその年の打ち納めとなるもので家族や友人のために心を込めた特別なそば打ちとして、大晦日は心地よい疲れで満たされていることと思います。

さて、去年は日本全国いや世界中の人々にとって特別な年となったことは間違いないでしょう。

2019年11月に中国武漢で確認されたという新型コロナウイルス COVID-19 は、1 月には日本で感染者が確認され、その後クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の感染拡大で毎日のように TV で放映されていましたが、その当時は、「またたくまに全国に拡大し日常生活が一変する」とは多くの国民は予測していなかったのではないかと思います。

その後2月26日には全国の学校が一斉に臨時休校、4月16日に緊急事態宣言が初めて発令され日本は正に自粛列島となっていきました。

「新型コロナウイルスの感染防止を講じながら社会・経済活動を進めていく「with コロナ」、
「ソーシャルディスタンス」、流行語大賞にも選ばれた「3密」(を避ける)などで少しずつ社会生活が戻り始めたかのようにでしたが、早くも7月からスタートした「GOTO トラベル」等で国民の感染防止対策に気の緩みが出たのか年末には再度の緊急事態宣言の可能性も懸念されるような発言も出ています。

感染防止対策で最も言われるのが「不要不急の外出を控える」、「3密、特に多人数での会食を控える」であり、このことはできる限り守ることが大切だと思います。

ところで、「不要不急」とは何を指すのか？

緊急事態宣言のときに、趣味のそば打ち活動は「不要不急」か？との議論をそばネットジャパン理事会で議論したものの明確な結論は出ませんでした。

ただ、そばネットジャパンは単なる趣味のそば打ち集団ではなく”伝統食文化の代表格といえる”手打ちそば”の継承・発展のための”文化活動”であり、”感染防止対策のための知恵”を出し合いながら事業を展開していくことが大切なのではないかとの結論に達しました。

手打ちそば普及活動の中心となる人財育成のための「手打ちそば指導者講座」は3密を避けての再会、「第2回全日本そば打ちマスターズ大会」を無観客、1組当たりの出場者を3分の2の8人にして、会場定数の3分の1で開催、さらに、新規交流事業としてそばの種まきから収穫・製粉・試食まで一貫して体験し、「農業体験の楽しさ、天候や環境により簡単にはソバの実にならないことを学び、普段何気なく使用しているそば粉の大切さを実感する」体験を小学生も交じて埼玉県桶川市と狭山市で開催し、それぞれ30名を超える参加者となりました。

以上のようにコロナ禍でも事業を展開していくことにより、更なる知恵を生み出して発展していくこととなるものであり「継続する」ことの大切さを実感しております。

一方、並行して「そばづくり技能検定制度」の事業化の準備を進めてきましたが、9月の理事会で「そばづくり技能検定基本規程及び技能検定実施要項」を議決しました。

続いて、そばづくり技能検定開催に向けての「師範、准師範特別研修会」を9月、10月に開催し、40名の師範、准師範、技能検定員を任命することができました。

4月のそばネットジャパンスタートから、全麵協段位認定者のそばづくり技能段位への編入認定が進み HP 掲載のとおり11月までに284人が認定されていますが、なんとといってもそばづくり技能検定会での合格者による認定者を増加させていくことがそばづくり技能検定制度の発展に寄与するもので、本格事業実施に期待が寄せられていました。

記念すべき第1回は12月6日(日)群馬県沼田市「沼田そばの会」(会長宮田優一氏)主催

の「第1回そばづくりリスト技能検定会in沼田」でした。初段19名、二段10名、三段3名計32名が日ごろの稽古の成果を十二分に発揮され全員めでたく合格となり、それぞれ段位認定者名簿に登載されました。

さらに、1月16日(土)17日(日)に開催するそばネットジャパン直轄開催「第1回そばづくりリスト技能検定埼玉大会(初段、二段、三段、四段)」で2日間64名の募集をしたところ、定数を大幅に上回る98名の応募があり、急遽準備日であった15日(金)を検定日として3日間96名の認定会開催となっています。

次の技能検定会は3月13日(土)、14日(日)に「第2回そばづくりリスト技能検定埼玉大会(初段、二段、三段、四段)」を開催する予定で近く、開催要項を公開します。

来年度は、多くのそば打ち愛好者がチャレンジできるよう各地域で会員主催のそばづくりリスト技能検定会開催の拡充を図ってまいります。

また、そばづくりリスト検定制度の車の両輪として位置付けられている「そば学検定」もHPに掲載してありますとおり「そば学検定委員会」が発足し、学識者6名を委員として委嘱しており、現在テキスト原稿を依頼中で、3月には開講の見込みになっています。(詳細はHPで)

以上のように近い将来に訪れる”アフターコロナ”に向けて着々と前進しており、会員の皆さまの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NPOそばネットジャパンは多くのそば打ち愛好者、そば店をはじめとする関係者・団体を含めた交流の場であるとともに日本中の地域に根差す多様なそば文化を尊重する組織として発展していくことを目指しています。

会員一人一人が楽しくそばを打ち、仲間との交流を通じて心豊かな生活を送ることそのものが「そばづくりリスト」として日本のそば食文化の継承に貢献しているものとなります。

新型コロナウイルス対策はワクチンの普及に加えて重症化に対応する治療薬ができるまではまだ相当の時間を要するかもしれません。

会員の皆様におかれましては感染防止対策に配慮しつつ健康で明るい生活を送られますことを心からお祈り申し上げます。

～コロナ禍でそば打ち楽しむ知恵出して交流広げるそばネットジャパン～

令和3年元旦

NPOそばネットジャパン
代表理事 阿部成男



第2回全日本そば打ちマスターズ大会
出場者32名と審査員
2020/9/27 日埼玉県県民活動総合センター



第1回そばづくりリスト技能検定会in沼田
ジャパンにとって初めての検技能検定会
2020.12.76 沼田市役所多目的ホール